

自衛隊配備の石垣島へ 眼で見て、耳で聴いて・・・

11月2～3日、石垣島への自衛隊配備の視察と住民との意見交換のため、大野中央副委員長、沖縄地本・波照間副委員長、永山書記長、そしてJR西日本労組の役員3名の計7名で現地に行きました。

政府は「中国脅威」論を振りまき、「軍事的抑止力と災害対策のために必要」と宣伝しているが、地元では「これまで通り、非武装の島、基地がない島として安全と平和を守りたい」と訴えています。

石垣島では、海だけでなく山や森を楽しむ観光客が毎月増加しています。八重山地区医師会会長上原秀政さんや「石垣島への自衛隊配備を止める住民の会」の藤井さんから、「石垣島は移民してきた人たちが多く、自分たちで土地を開拓してきた。私たちは自衛隊を批判しているだけでなく、基地が作られることに対して反対してい

ます。尖閣諸島での抑止ならば海上自衛隊配備が先決だろう。なぜ陸上自衛隊の基地がいるのか、説明もいい加減で、容認できない。今の新石垣空港は、30年近くの議論を経てようやく完成したが、自衛隊基地は、説明もないまま建設が強行されようとしている。まるで沖縄の高江や辺野古のように住民の反対を無視しての軍備強化は認められない」と話されました。

私も初めて石垣島に行きましたが、海のみならず、肌で感じた自然豊かな環境を壊してはいけないと思います。

交流会では、石垣島にある4分会から15名が参加して、全港湾の闘う伝統を語り合い、労働者としての団結と闘いを確認しました。

変わっても何らかの形で全港湾の運動を支えよう」と檄を飛ばしました。

私たちが、諸先輩の経験を学ぶことは大切です。退職後も、「退職者の会」に加入して、労働者の雇用確保と生活向上のために、支部と共に歩みましょう。

(編集部)



上がストライキに参加した中で、当事者として映画に登場していたりで、若かりし頃を振り返る人も少なくありませんでした。退職者の会会長の横山定徳さん(日本塩回送分会出身)は「職場を退職したら自動的に組合も離籍し、労働運動から離れるという状態がいいのか、全港湾魂は「生懸組合員」ではないのか、年金生活、第2の職場に

21世紀最大のデモ！

日韓民主労働者連帯 秋定期訪韓団に参加

日韓民主労働者連帯2016秋季訪韓団の一員として、11月8日から14日まで、民主労総全北本部との交流及び11月12日(土)ソウルで開催された「チェ・スンシルゲート真相究明！パク大統領退陣！民衆総決起大集会」に参加してきた。

パク・クネ大統領が国家機密を漏洩し、チェ・スンシルが政権と財界のパイプ役となって利益を独占していたことに韓国民衆の怒りが爆発し、「パク・クネ大統領退陣！」の声が韓国中に響き渡っていた。



「パク・クネ退陣」プラカード

私たちは11月9日17時に全州に到着後、民主労総全北本部が路上を占拠して開催している「総力闘争決起大会」に直行した。豊南門(ブンナムムン)広場まで一緒にデモ行進を行った。広場では全州市民と共に民衆ろうそく集会に参加した。このような民衆集会は、民主労総が市民に呼びかけて連日開催されているようで、11月5日には3500人が集まり、11月19日には1万人集会を準備しているとのことだった。デモには沿道から声援がおくられ、走っているバスの運転手が連帯のクラクションを鳴らしていく光景は、労働者と市民の熱い連帯を感じ、何とも言えな



11月12日の100万人集会

い感動を受けた。労働者と市民の怒りがひとつになっているのだ。この地域でのパク・クネ支持率は0%であることが実感できた。

韓国民衆の怒りがどれほど大きいかは11月12日、ソウル市庁前広場で開催された民衆総決起大集会と100万人が参加したロウソクデモが表している。ソウル広場から大統領府までの5コースの幹線道路をはじめ、道路という道路、広場という広場、歩道や裏通り、路地裏までも人、人、人・・・、人の波、ロウソクの波で埋め尽くされた。

私は昨年の8月30日国会前で戦争法反対12万人行動を体験したが、それとは桁違いの規模で、生涯初めての体験だった。

民衆の力で社会を変える

実は荒れる光景を予想していたが、今回の集会・デモは極めて平和的だった。若い人が非常に多く、中高生だけの1000人のデモ、子どもと一緒に一家で参加した家族、ベビーカーを押す家族連れ、友達どうし、恋人同士、家族同士でロウソクを分けて、深い憤怒の意を

現していた。この国には直接民主主義が根付いていることを実感した。

大統領府までのデモを警察は許可しなかったが、裁判所は、「集会の自由を過度に制限するもの」と判断して、今回初めて許可した。曰く「青少年・大人・お年寄りを問わず多数の国民が自発的に参加しており・・・集会を条件無しで容認するのが民主主義国家である」とした。トラブルも無く、集会デモ終了後には自らゴミ収集し、混雑した駅でも市民は列を作っていた。マスコミは「成熟した市民意識が輝いた」と評価した。こうした光景は日本でも見られるが、直接民主主義の光景が違う。「チェ・スンシルゲート真相究明・パク大統領退陣！」を求める民衆総決起の大行動は、ソウルでも全州でも民主労総が主導している。

労働運動がリードして市民運動と一緒に国民の大運動を組織している。合い言葉は、「労働者の力で社会を変える」だ。

私たちも同様に「安倍退陣！」をリードし社会を変えよう！

下藤 哲夫(ユニオンおおさか)

支部退職者の会

総会で連帯を確信

「全港湾大阪支部退職者の会」の第22回定期大会が11月13日、港湾労働会館にて、来賓を含めて28名の参加で開催されました。

退職者の会は1995年に結成され、朝鮮戦争やベトナム戦争等に反対し、軍事物資の荷役拒否など、あるいは港湾合理化と対決し、また、住電や岡谷鋼機の争議を勝利させるなど、港湾労働者の職域と雇用を守るために体を張って奮闘してきた諸先輩方が集っています。

総会では1974年当時の上組闘争の上映会が行われ、当時3千人以

上がストライキに参加した中で、当事者として映画に登場していたりで、若かりし頃を振り返る人も少なくありませんでした。

退職者の会会長の横山定徳さん(日本塩回送分会出身)は「職場を退職したら自動的に組合も離籍し、労働運動から離れるという状態がいいのか、全港湾魂は「生懸組合員」ではないのか、年金生活、第2の職場に